



中央聖書神学校

Central Bible College

CBC後援会だより

vol.24

神学教育の展望

中央聖書神学校専任教師

平松 契



日本の神学教育は、今大切な局面を迎えています。高齢化と少子化に伴い、献身者や入学生が減少し、閉校の危機に面している神学校も少なくありません。しかし、これは日本だけでなく、世界規模で起こっています。ある有名な新約学者が、世界中を見てきた結果、どの神学校でも同様のことが起こってきていると分析しています。具体的には、神学校の入学者は減少し（特に超教派の学校で顕著）、短いプログラムが好まれ（3年よりも1年のプログラムなど）、フルタイムではなくパートタイムでの学生が増え、50・80%の学生は対面ではなくオンライン学習をしており、教師はオンライン授業よりも対面を好むが、仕方なくオンライン授業を行なっているということです。

この分析は、CBCにもそっくり当てはまります。神学教育は大きく変わってきているのです。そ

して、この分析に付け加えるならば、知識を求めて神学校に来る人も減っていくと思います。かつては、神学校に來ないで得ることが出来なかった知識が、現在では、オンラインで簡単に手に入るようになりました。著名な学者からオンラインで直接学ぶことが容易になり、AIなどによって誰でも知識へのアクセスが可能な時代になりました。知識を求めて神学校に来るという意味が曖昧になりつつあります。では、神学教育はもういないのでしょうか。私はそうは思いません。しかし、神学教育の役割は確かに変わってきているのです。

私は、神学教育の未来について、特に二つのことが大切だと考えています。一つは、神学校が学びのコーディネートをするということです。上記に述べたように、現在は誰もが情報にアクセスできる時代になりました。しかし、情報があまりすぎ

て混乱する時代でもあります。有益な情報だけではなく有害な情報もあります。そこで、神学教育の一つの役割は、奉仕者に必要な知識と訓練をコーディネートすることです。特に私たちの学校の場合は、ペンテコステ信仰の奉仕者として必要な学びと訓練を提供します。

もう一つは、仲間の体験をすることです。私の口癖は「誰から学ぶかと同様に誰と学ぶかが大切」ですが、学生が共に学び、奉仕する仲間と出会い、人を通して神の体験をすることです。そこには、教師との関わり、派遣教会での出会い、学友同士の友情も含まれます。時には将来のパートナーと出会うこともあるでしょう。

神に仕えるということが、人に仕えることである限り、神学教育は人間教育の役割を負い続けます。そして、CBCは学生たちに、神学的知識の提供と共に、仲間に出会う場所、そして人を通して神に出会う場所であることを願っています。そして、後援会の働きは、人間教育を担う大切な働きです。神学生は、後援会の皆様によって、支えられ、励まされ、祈られ、神を体験します。この尊い働きを心から感謝いたします。

9月6日(土) 学生ランチ交流会

CBC 後援会長 酒 井 勝

本科生の夏派遣・キャンプ等の活動を慰労することを意図として行いました。

本科生 4 名と後援会役員 11 名が参加し、お弁当に加えて心を込めた手作りの肉じゃが等の惣菜と旬の果物のデザートを味わいました。

各後援会役員からの激励の一言は若い頃の信仰体験談の証しが多くありました。

学生さんたちからは、それぞれ九州・四国・東海の各教区派遣と海外宣教に重荷のある学生さんのインドネシア派遣の証しがありました。

同じ教区内の教会でも、環境や教会が積み重ねてきた働きの違いを経験したことは大きな学びだったようでした。

イスラム教の大国であるインドネシア派遣は、あえて希望し、文化の違いや宣教の厳しさ等、現地でしか味わえない経験を通して、宣教への強い思いを知らされました。

限られた時間の中でしたが、全国の後援会員の皆様が神学生の皆さんのために日々祈り支えておられることも確認させて頂きました。



☞ 2025 年 8 月の「CBC キャンプ」のために学生がデザインした T シャツを作成・販売いたしました。▶
本科生、通信科生、教師、スタッフ、参加者がお揃いの T シャツを着用して、キャンプに参加いたしました。作成費用の一部を後援会会計より献金したことを、ここにご報告いたします。



収穫のために働き人を

小岩栄光キリスト教会牧師 安間 正道



主の御名をあげます。

中央聖書神学校（CBC）の後援会のお働きに心から感謝申し上げます。今回、このように寄稿する機会をいただき感謝いたします。本年、開校75周年を迎え、これまで主の力強い御手によって支えられ導かれたCBCがますます聖霊の豊かな力と励ましによって前進していかれることをお祈り申し上げます。

さて、私は「今後10年間、20名の神学生を送りたい」と祈り願っています。これまでも当教会からCBCへ入学し、教団教職、教団外の教職、教会献身者、そしてろう者伝道師として伝道・牧会に励んでおられる方々が多くいます。かく言う私はCBCを入学も卒業もしていません。しかし、私が小岩教会の主任牧師となつてから、神学生の日曜派遣を受け入れ、一生懸命に取り組む姿勢や卒業後に教職として活躍している姿を通して、私たちの教会において

も良い刺激と機会をいただきました。また、通信科での学びや基礎課程コースの設立により門戸が開かれたことも大きなきっかけとなり、多くの人に学び、訓練を受け、教会内外において主に用いられて欲しいと願うようになりました。

私たちの教会にはあらゆる世代、あらゆる国籍、あらゆる境遇にある人々が集まっています。それぞれのグループに御言葉を学び訓練されたリーダーが必要です。また、いくつかのフィリピン人の枝教会がありますが、日本語の教師や説教者が必要としています。基礎課程コースを学んだ人々を遣わすことができればと考えています。その他にも、様々な宣教の可能性を踏まえて、在日外国人への伝道、終活や葬儀ミニストリー、次世代に関わる活動を展開できればとも願っています。2024年の教会創立70周年の年にそのような想いが与えられ、

祈りはじめ、伝えはじめました。2034年（教会創立80周年）を目標に基礎課程、ろう者聖書学校、中国語コースを含めて20名の入学者を送り出せればと祈り求めています。1年に2名の目安です。主が教会の愛する兄弟たちに明確な召しと導きを与えてくださるようにと祈っていただけば幸いです。

末筆となりますが、本年入学者はいませんでした。その代わりというつもりはありませんが、正教師となり10年が経ち、学び直す意味でCBCの授業を聴講しています。忙しい日々の中ですが、神学生たちと有意義な学びの時間をいただいています。学ぶなら、神の導きに従うなら今です！

「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主にご自分の収穫のために働き手を送ってくださいるように祈りなさい。」

マタイ9章37、38節

2025 年度 会員数・会費納入状況（1 月～9 月）

区分	年間計画		実 績		計画対比		
	会員数	会 費 (円)	会員数	会 費 (円)	会員数	会 費 (円)	会費進捗
法人会員	7	300,000	3	230,000	-4	-70,000	77%
教会会員	55	1,000,000	22	325,000	-33	-675,000	33%
個人会員	300	2,250,000	213	1,652,500	-87	-597,500	73%
賛助会員	50	100,000	26	54,000	-24	-46,000	54%
合 計	412	3,650,000	264	2,261,500	-148	-1,388,500	62%

これからもお祈りをご支援をよろしく願いいたします

献身者が経済的な憂いがないように支援の輪に加わりましょう

中央福音教会

東京都豊島区

6月1日酒井勝会長とJR池袋駅から10分歩き、賑やかなサンシャイン通りから一本、中に入った静かな通りに面した教会に訪問し、荻野先生の礼拝メッセージ後CBC後援会入会案内をさせていただきました。教会役員の方、荻野先生、関口尚子先生に出迎えていただき、感謝の時間を過ごさせていただきました。

(柳谷良子)



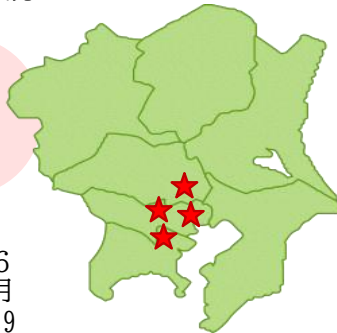
左から 玉山兄、矢島兄、柳谷、酒井
関口尚子先生、荻野倫夫先生、山田兄

関東南西教区西地区
壮年・婦人集会

西東京キリスト教会

6月29日午後、西東京キリスト教会にて「高齢化社会における教会のあり方」と題して平松契先生からピレモン書、第二コリントを通してご講演を頂きました。その後、会長の酒井勝兄と後援会入会のアピールをさせて頂きました。1人、2人と会員が増えることを願っております。

(岩本章子)



西東京キリスト教会

溝の口キリスト教会

神奈川県川崎市

7月27日溝の口キリスト教会にて神学校専任教師の平松契先生をお招きして50周年記念礼拝が持たれ、神の家族への招待状は全ての人に恵みとともに用意されている。と語られました。礼拝後には岩本章子副会長とともに後援会をアピール、3名の方が応答くださり入会を希望されました。

(西山 宏)



左から 西山、仁井田義政先生、岩本

草加神召キリスト教会

埼玉県草加市

7月20日快晴で気温も高く灼熱の日に、東武伊勢崎線・独協大学前駅から歩いて7分の教会に酒井勝会長と訪問させて頂いた。霊に燃えた礼拝後、貴重なお時間をCBCH後援会案内をお伝え出来ました。様々な重荷を負って活躍されている教会ですが、後援会の入会も期待し、天野先生のご理解にも感謝し上げました。

(柳谷良子)



左から 天野弘昌先生、天野百合香先生
山城良美宣教師、酒井、柳谷

会計報告は3ページにございます。

「後援会だより」や郵便局の払込取扱票が必要でしたら、
ご遠慮なく左記にお問い合わせください。

今年度から平松契先生が専任教師として、駒込キャンパス内に住まわれています。先生は常々、「何を学ばかも大事だが、誰と学ばかは、更に大事だ！」と言われています。共に学び合い、祈り合い、励まし合いながら、主の働き人として訓練され、宣教現場に巣立つて行つて欲しい。現在、駒込で学ぶ在校生は4名しかおらず、75年の歴史で最も少なく、存亡の危機にあると言えます。そのため毎学期、開講科目の履修希望人数が定員に足りず、やむなく休講せざるを得ない科目が幾つかあると聞く。素晴らしい神学教育を高めながら増えることは教団全体として喫緊の課題です。私たち後援会として、献金で神学生を支えるのは勿論ですが、来年は再び10名以上の本科生が駒込に入学するように全力で祈りましょう。(富山均)

発行所 中央聖書神学校後援会
所在地 〒170-0003
東京都豊島区駒込3-15-20
Tel 03-3918-4925
Fax 03-3918-4064
E-mail kouenka@cbs-j.ac.jp
編集 後援会委員会
印刷所 ベーテラフォト印刷(株)
発行日 2025年11月1日